

## 破壊的イノベーション

(中部大学<sup>1</sup>) ○山本 尚<sup>1</sup>

Disruptive innovations (<sup>1</sup> Peptide Research Center, Chubu University) ○Hisashi Yamamoto<sup>1</sup>

To solve 30-years problem of Japan, several difficult problems should be solved. The most important key is to start destructive innovation as soon as possible. Unfortunately, government and companies in our country have sustainable innovation but not destructive innovation. Real innovation, that is destructive innovation can revive Japan. I would like to discuss how to introduce destruction innovation during my presentation.

*Keywords : Destructive Innovation; Sustainable Innovation.*

1980年代から続いた我が国の景気の悪い時代は、米国のグローバリゼーションなどの政策がその始まりを作ったと言われている。この状況を改善するには、我が国で破壊的イノベーションをできるだけ多く始める他ない。しかし、我が国の政府や産業界はリスクの多い破壊的イノベーションには極めて消極的である。基本的には持続的イノベーションで十分だと考えているが、これは大きな間違いである。持続的イノベーションだけでは、米国の統計では企業は数十年で倒産すると言われているからだ。一方、破壊的イノベーションが好景気を呼び込むのに、非常に効果的であることも実証されている。

MABLの受賞者のプロジェクトを見て、すぐにわかることは、一つ一つがしっかりとした本当の破壊的イノベーションを目指していることである。このスタンスを化学会の研究者が取り入れることができれば、我が国の将来は明るいものになるだろう。さらに強調したいことは、研究の目標を立てることが極めて重要であるが、目標は研究用語を使わずに縦書き1行で表現してほしい。目標は数週間で考えたものではなく、数ヶ月から数年かかって考えて欲しい。これに成功すれば、研究の成功は約束される。

1) イノベーションのジレンマ、技術革新が巨大企業を滅ぼすとき、クレイトン・クリステンセン、玉田俊平太監修・伊豆原弓訳